

業界専門紙にとどまらず、一般紙やテレビでも報道されるようになった運送業の人手不足。人手不足による最大の影響は、深刻な過重労働のまん延ではないだろうか。

帝国データバンク大阪支社が近畿地方に本社を置く企業を対象に行った調査では、月の残業が100時間を超える従業員が1人でも

いる企業の割合が10.0%となった。業界別に見ると、運輸・サービス・建築など人手不足の分野で過重労働が顕著になっている。

また、近畿運輸局はこのほど、平成26年度の監査及び行政処分の結果について発表した。過労に関する違反はバス・トラックともに最も多い違反内容となっている(バス62・

トラック56.1%)。特にその中でも、点呼や乗務時間での違反が目立つ。国は、長時間労働が過労死の原因となっていることから対策を強化し、今年4月から「過重労働撲滅特別対策班(通称・かとし)」を東京、大阪の労働局に設置している。今月2日、従業員に月100時間の長時間労働を

と安全は両輪に例えられ、どちらが欠けてもダメ。そのためにも、ドライバーとのコミュニケーションを深める必要がある。年長者のドライバーが言ったことに配車マンが反応しなければ、ドライバーは次から何とも言わなくなる。これでは人間関係がぐづれかねない(とも指摘する)。「社員は同じ仕事を

例となった。また国は5月、従来は送検後とされていた悪質ケースの企業名の公表を行政指導の段階でできるようなにした。いわゆる「ブラック企業」の公表は、該当する企業の信頼失墜につながるため、抑止力につながると思われる。さらに、学業に支障が出るほどの長時間労働や社員と同じような

が労働組合を結成するなど、長時間労働に対する世間の目は厳しさを増している。今回の「かとし」の摘発について大阪市内の事業者は、「大きく報道されたことの方が影響が大きいのでは。ブラック企業というレッテルを貼られてしまうと、ますます人手不足になりかねない。そうなれば会社は違法労働を繰り返すわけにもいかず、倒産に追い込まれる。当社は全国規模ではないが、処分

運送業に限った話ではないが、過労死につながるリスクが多く聞かれるような職種には若い人材は集まりにくく、早期離職者も多く、過重労働が横行すれば社内の人間関係も悪化し、パワハラなどから精神疾患となる従業員がますます増える可能性もある。機械やシステムを活用した省力化など、過重労働を防いでいくことが必要だ。

### 大通の交通安全活動③ 情報を引き出す

松本望社長

今回は松本望社長に経営者から見た「交通安全活動」について話を聞いた。松本社長は一言、「落第」と話す。「社内でのコミュニケーションが足りない。

特にドライバーと配車マン。ドライバーは最前線で動いたため、多くの情報を持っている。積み込み先や組み立て先などの情報を配車マンはドライバーから引き出すことが大切」と、情報から交通安全活動が具体的に進むと考える。

松本社長



「売上げ

「社員は同じ仕事を

「社員はこの2年間、交通安全への取り組みをよくやってくれた。もったいない会社にするために、今日よりもいいものを作ってもらいたい」と話す。

(小西克弥)

### もう一つの見方

「準中型自動車免許」制度がまもなくスタートする。満18歳で取得することができ「高卒採用の促進につながる」と人手不足に苦悩するトラック業界は期待を寄せている。

水を差すわけではないが、過度の期待は禁物だ。むしろ新制度(改正道交法)の下、普免では、ほとんどの貨物自動車運転できなくなるこのの方が重大事だ。

関係者でも知らない世代が多くなったが、現在の中型免許ができるまで、普通免許で車両総重量8トン、最大積載

24システムタイヤサービス 移動式  
近畿圏内では大型の24システムタイヤ二両にフォークリフト、大型サービス(田中宏術社建設機械用タイヤなど)長、大阪府堺市美原区)では、大型特殊車両(大型フォークリフトや大型建設機械など)の、自走不可能車両のタイヤ交換をしなければならず、移動式の特殊クレール付き平車両を導入した。

### 準中型免許問題

## 普免の範囲は縮小された

量5トンのトラックを運転することが可能だった。一方、トラック業界では4トンの車などにクレールやリフトなどを架装するケースが増加。荷物を満載すると車両総重量が10ト近くになり、大型車の規制を受けることになるため、普免で運転できる範囲を車両総重量10トまで拡大してほしい。トラックの性能も法律ができた当時より格段に向上している。車両総重量10トまでのトラックは「普通車」に区分してほしい」との声が業界から沸き起こった。これがいわゆる「架装減トン」で、今から25年ほど前の話だ。

事業者の強い要望から全ト協など業界団体と消費者団体、学識経験者やメーカー代表、国交省、警察庁などで